

一 般 質 問

要 旨



平成二十年春 一斉にオープン

パークゴルフ場・現代美術館・中央病院

第四回定例会での市政に対する一般質問は、十二月十日、十一日の二日間

行われ、十人の議員が登壇した。行財政運営、十和田市現代美術館、病院

医業収益などについて活発な議論が展開された。要旨は次のとおり

一 般 質 問 者 紹 介

- 野 月 一 博
- 工 藤 正 廣
- 桜 田 博 幸
- 石 橋 義 雄
- 岩 城 康 一 郎
- 今 泉 勝 博
- 舛 甚 英 文
- 堰 野 端 展 雄
- 畑 山 親 弘
- 杉 山 道 夫

(発言順)

注) 発言順と掲載した順序とは一致しません。



総 務 文 教

行 財 政 運 営 に つ い て

質問 市の行財政運営の基本的なスタンスと平成二十年度の予算編成の考え方を伺いたい。

答弁 国の三位一体改革以降の地方交付税の削減、市税の伸び悩み、社会保障費の自然増など、市の財政環境は非常に厳しさを増している。このような状況から、平成二十年年度予算編成方針においては、投資的経費及び経常的経費において前年度当初費一〇%減額など、前年より厳しい編成となっている。今後とも厳しい財政状況は続くものと思われるため、行政改革大綱に基づく集中改革プランについ



厳しい財政状況が続く十和田市

ても、随時見直しを図りながら財政改革に積極的に取り組む、歳入の確保と歳出の削減を図り、健全な財政運営に努めていかなければならないと考える。

質問 合併当時と現在の財政状況を比較してどのように考えるか伺いたい。  
また、新しい自主財源の確保について、どのように考えるか伺いたい。

答弁 合併年度の平成十六年度の決算額は三百一億円、そして平成十九年度九月現在の予算額は二百九十億円となっており、十二億円の縮小となっている。これは、合併により特別職や一般職員の数及び経常的経費の削減などによるものと捉えている。

自主財源の確保については、基本的には集中改革プランに沿って使用料等の見直しを検討するほか、税の収納率アップの確保の一環としてコンビニ収納に取り組みとしていくことのほか、未利用財産の売り払いについても計画的に実施していきたいと考える。

交 付 金 に つ い て

質問 電源立地地域対策交付金が毎年六億円ほど交付されるが、この交付金について電気料金の給付事業に活用している市町村の状況を伺いたい。

また、この交付金を使って街灯数を大幅に増やし、町内会で負担している電気料金も含め、市で負担してはどうかと思うが、どのように考えるか伺いたい。  
答弁 電気料金に活用して

いるのは、平成十八年度で三沢市、六ヶ所村、野辺地町、東北町、東通村、平内町、七戸町、おいらせ町、六戸町の九市町村である。活用方法については、こ

れまで地域振興に寄与する事業やまちづくりに不可欠な事業に活用してきたが、平成十六年度から用途が拡大されたことから、現在同交付金の使途活用については検討しているところであるが、同交付金を街灯の電気料金へ使用することについては考えていない。

障 害 者 の 雇 用 に つ い て

質問 市職員の障害者の採用状況について伺いたい。

また、今後この障害者の雇用、採用について、どのように考えるか伺いたい。

答弁 平成十九年度における障害者の実雇用率は一・二二%となっており、法定基準である障害者の雇用の促進等に関する法律施行令の二・一%を満たすためには、あと四人の雇用が不足している状況となっている。障害者の雇用については、これまで行政職の職員募集に当たり、障害者であっても自力で通勤ができ、介

助なしに職務の遂行が可能であることを条件として募集しているが、過去三年間で一名のみの受験者しかいない状況にある。今後の採用に当たっては、

集中改革プランの定員管理適正化計画により、現在退職者の一部不補充や民間委託等を進めているなど、職員の削減に鋭意取り組んでいることから、採用枠が大幅に狭められている状況にある。一方、市職員希望者は多いことから、障害者だけの特別枠を設けて雇用する手法は採用していない。しかし、法定雇用率を少しでも充足させていくため、行政職の採用試験において障害のある方もまったく同じ条件で受験できることをホームページ等で広く呼びかけていきたい。

また、受け入れる職種や業務・勤務場所等の精査をしながら、施設のバリアフリー化等の整備に努め、障害者の臨時職員やパート等も検討してみたい。

